

山口大学理学部数理科学科

1 温泉と維新と

“のんびり、ゆったり、温泉に浸かって、数学を楽しんでみませんか？”

ちょっと前まで学科ウェブサイトの受験生向けページに掲げられていたキャッチコピーです。紅葉と苔むした庭石に囲まれ街中の喧騒が嘘のように静寂な露天風呂や、歴史に登場する偉人の疲れをも癒したとされる由緒ある湯船に浸かっていると、日頃の学科運営の雑用からくるストレスもみるみるうちに解消されます。時には、新しいアイデアが、定理が、理論が、湯のようにこんこんと湧き出てくる、そんな錯覚を覚えるほどです。山口大学理学部数理科学科はそういう環境下^{*1}にあります。

“まだ眠っている才能がある。貴方の「数学維新」が今ここから始まる。”

こちらは、現在配布されている大学院生募集用ポスターに鎮座する謳い文句です。幕末から明治にかけて日本という国を根底から覆す、後に「維新」と呼ばれる数々の出来事その渦中で指揮し見届けた人々の多くが長州の志士達でした。既存の概念や体制に囚われず、時代の変化やニーズに応じて積極的に新しいことに取り組んで行く、そういう精神がここ山口、そして山口大学理学部数理科学科には根付いています。

こうした学科の泥鰌、ではなく、土壌から芽を出し、育ち、実をつけた日本初の画期的な入試方法が「配点の自己申告制」です。今や当学科の代名詞ともなったこの入試制度は山口でなくしては生まれ得なかった産物と言っても過言ではないでしょう。紙面の都合で一部名称だけを後述しますが、他にも所属教員によって学科独自の企画が学生教育のために生み出され活用されています。

2 誇れるもの

上記のような背景があるものの、環境や設備の点で他に劣る地方大学の一学科（教室）が何か出来るとすれば、それはひとえにその何かをなせる人材がいるからに他なりません。“人は城、人は石垣、人は堀。”武田信玄が言ったとされる一節のとおり、まさに「人」こそが、当教室の活力の源であり、他に胸を張って誇れる財産と言えるでしょう。

^{*1} と言っても、学内に温泉が湧いているというわけではないですが...大学から徒歩 30 分程の所に白狐が見つけた「湯田温泉」があります。数多くの旅館やホテルがあり、宿泊せずとも一風呂浴びることが出来ます。湯田温泉は温泉街であると同時に山口市一番の繁華街でもあり、夜ともなれば、酒をこよなく愛する人々の集う場所でもあります。“ほろほろ酔うてこの葉ふる”，湯田温泉に縁のある漂泊の俳人種田山頭火の句碑を見つけることもできます。

そこで今回は、「教室だより」として、教室の至宝である「教員」を大公開することに致しました。各教員には、教育・研究・プライベートなどなど、会員の皆様にお知らせしたい最新の情報をツイートしてもらいます。平成 24 年 1 月 1 日現在、教室には 14 名の教員が在籍しています。まずは、当教室の「長州ファイブ」ならぬ「長老ファイブ」*2から。

内藤博夫 教授（専門分野：微分幾何）

「対称空間の部分多様体をグラスマン幾何の観点から研究しています。講義は集合と位相を担当しています。最近では、副学長として大学評価を統率しています。」

内藤ゼミ学生 A さん「柔和でやさしい性格の先生で、生徒の質問に対してはいつも前後関係も含めた立体的な説明をしてくれます。講義の雰囲気はとても知的ですが、なかなか難しいです。」

久田見守 教授（専門分野：代数学, 環論）

「数学にどっぷりウン十年、気付けば人生の大半は数学と共に。学生の『何故、数学をするのか』との問いには、『そこに数学があるから』と答えてきた。しかし最近、数学もアピールが必要な時代であることを痛感。代数学の一環として、4年ゼミでは符号理論や暗号理論を扱い、現代における数学の素晴らしさを伝えたいと思う昨今です。」

増本誠 教授（専門分野：複素解析学）

「昨夏、友の招待で北京へ。夕食時、『曹操の好物』を前に、『中国人は曹操、孫権、劉備のうち誰が好きか』と尋ねると『劉備』と予想通りの答え。しかし、『自分は劉備と血が繋がっている』との発言に驚愕。『では、劉邦とも？』『いかにも』『世が世なら君は皇帝？』『その確率は ε 』数学を通じた国際交流も楽しんでいます。」

木内功 教授（専門分野：解析的整数論）

「湯田温泉街とは全く違う山口商店街は、夕方ともなればシャッター通りとなり7時には人を見かけることが困難になるほど閑散としています。それでもおいしい『酒』と『魚』と『肉』があります。特に、なじみのお店では、季節になると島根産天然『鮎』が焼肉屋なのに食することができます。」

中内伸光 教授（専門分野：微分幾何学）

「関西出身、専門は多様体上の変分問題で、最近では C-stationary map と symphonic map と名づけたものを研究しています。趣味でギターとダンスに興じています。」

中内ゼミ学生 B さん「個性的な教科書を出版され、おやじギャグの文章を書いておられますが、ふだんはとてもマジメな先生です。質問をすると、明解で本質的な解答がもらえます。」

*2 さすが長老だけあって、いろいろな“毒消し”を持っています。困ったことが起きた時に相談すると、たちどころに解決してくれます。大変有難くとても頼りになる存在です。



廣澤准教授撮影．数理科学
科忘年会にて．学部3・4年
生，院生，教員が参加．盛
り上がっているようですが，
飲み過ぎには注意しましょ
う！忘れたいというより無
かった事にしたい，なんて
ことにならないためにね．
(酒席での失敗には事欠かな
い筆者より)

次に登場するのは，現在の教室運営をリードするパワフルなお三方．就職支援講演会「数学とキャリア」，学生の探究心を育成する「数理科学コンテスト」，好奇心をくすぐるサークル「数楽工作倶楽部」など，教育のための多種多様な企画・場面で活躍中です．

菊政勲 准教授（専門分野：代数学）

「最近，キャリア教育や就職支援のため，卒業生に連絡をとる機会が多いのですが，個人情報保護の意識の高まりや法のためか，卒業後の動向や連絡先がつかみ難く苦労します．そんななか，講演等の依頼をするのですが，皆さん後輩のためにと快く引き受けて下さいます．ありがたいものです．」

吉村浩 准教授（専門分野：代数学）

「『代数学の授業は何をやっているかわからない』学生の言葉である．高校数学までの下地があり，また視覚的説明が可能な解析学や幾何学に比べ，演算を公理化し抽象的に扱う代数学は，『何を』学ぶのかとともに『何故』学ぶのがより強く意識されるのであろう．かの学生にどう答えるか...『では代数学のゼミにおいて』（Endless?）」

廣澤史彦 准教授（専門分野：偏微分方程式）

「幾重にも続く青い山々，魚影が躍る清流，湯煙の漂う温泉街．そんな，全国最小の県庁所在地にある旧制高校母体の国立大学．キャンパス内をゆくと，校舎の間から聞こえる運動部の掛け声，楽器の音．理解あるスタッフと，小規模ゆえ小回りのきく組織を生かし，研究教育に関する新しい試みに取り組んでゆこうと考えています．」

続いて，教室が誇る若手講師三羽鳥．着任してからまだ日は浅いものの，丁寧かつ熱心な指導で学生からの人気も高く，いずれも将来の教室を背負って立つ逸材です．

村井聡 講師 (専門分野: 可換代数と組合せ論)

「山口に来て二年程ですが、教室の雰囲気も良く、(今の所)雑用や講義負担も程々で、のんびりと過ごさせて頂いています。皆様も、研究集会などの折にでも、是非一度山大にお越し下さい。また、山口で毎日温泉に入っのんびりしながら集中講義などしてみたいという方も歓迎致します。山大教員のどなたかにご相談下さい。」

鍛冶静雄 講師 (専門分野: 代数トポロジー)

「ここ山口大学の特色はその密度にあると感じます。学生の多くが自転車通学、生活のいたる所で顔見知りに出くわします。キャンパスの外に広がる人間関係のうちに、一生ものの絆が築かれるのではないのでしょうか。スーパーで『あの先生、毎日半額のお惣菜を買っている』とバレてしまうのは困りものですが。」

川上裕 講師 (専門分野: 微分幾何学、複素解析学)

「2011年4月から教室の一員になりました。私にとって山口は縁もゆかりもない土地ですが、なぜか懐かしさを感じていて、毎日楽しく過ごしております。そんな雰囲気からでしょうか、数十年前の文献を読みながら研究を進めていく機会が増えました。新しいことではあるが何か懐かしさを感じさせる、そんな研究ができればと考えております。」

最後に控えしはこのお二人。任されるのは裏方仕事が多いけれど、その職人ぶりはいぶし銀。教室の隠れた MVP ペアです。

幡谷泰史 助教 (専門分野: 流体の方程式)

「朝、家から歩いて大学に向う際は、兄弟山(おとどいやま)の色とりどりの木々、田畑の作物の実りやそこに暮らす生物達の季節による移り変わり、榎野川(ふしのがわ)に渡る朝霧を、また帰り道には運動場に沈む夕日、学生達の吟詠やアカペラ、姫山にかかる朧月などを楽しんでいます。」

郷間知巳 助手 (専門分野: 複素解析学)

「朝方に歩いていると、山あいから日が昇ってくる。明け方に雨が降っていたが、いまは晴れている。ふと振り向くと虹がかかっている。この虹はよく見る形状とは異なっていて、中心の角度が270度以上あり、円環領域に近い。珍しい自然現象であり美しい。このようなことが観測できるようなところでのんびりしている。」

ところで、筆者はつぶやかないのかって?お答えしましょう。

“この余白はそれを書くには狭すぎる。”

(文責:平成23年度学科長 宮澤康行 + 数理科学科教員)